



洗朱根菜平鉢 直径20 / H 3.5cm



洗朱根菜平鉢 直径14.5 / H 9cm



黒根菜平鉢 直径14.5 / H 9cm



洗朱根菜平鉢 直径14.5 / H 9cm

SHUJI OTA EXHIBITION GALLERY UTSUWANOTE



洗朱根菜小鉢・黒根菜小鉢 直径13.5 / H 4.5cm 洗朱幼葉盤 W43 / D27.5 / H 6.5cm



黒根菜葉盤 W40.5 / D27 / H 8cm



料金後納
ゆうメール

上：洗朱幼葉盤 W40 / D28 / H 6.5 中：黒根菜葉盤 W40.5 / D27 / H 8 下：洗朱幼葉盤 W43 / D27.5 / H 6.5cm



洗朱根菜・黒根菜小鉢 直径13.5 / H 4.5cm 洗朱幼葉盤 W43 / D27.5 / H 6.5cm

死ぬときに何が残るのか。いずれは誰しも自分自身に問い掛ける命題です。「確かなるもの」とは、自分が作ってきたもの、それを介して生活を成してきたこと、家族を支えてきたこと、この実感でしかありません。その現実こそが太田さんが歩んできた答えのように思います。1949年生まれの太田修嗣さんはいわゆる団塊の世代で今年75歳を迎えます。大学時代は学生運動が盛んな頃で体制に依存せず自立しようとする気概は未だにものづくりの底流にあるように思います。社会に出てからは日本の高度成長期を経験し、その後バブル崩壊の景気後退という、日本経済の上昇と下降を経験してきました。その結果、手造りの仕事を志したのは、自ら身体を使って糧を得ることに現実感があったからでしょう。それは「守るべきもの」でもあったはずで、作り手というのは言葉なき言葉の形にしている訳で、とくに思想哲学を振りかざすことなく自らの手によって生み出したものが全てを体現しています。それは手触り、実感、それを通じて生まれる

人間関係と経済行為であり、この時代に於いても等価交換のような嘘が入り込みづらな世界です。特に工芸家は自然素材と対話しながら、それに沿い、あるいは強いて、工程を進めていくのです。産地のような分業制ではなく、木の仕入れからろくろ、指物、削り物、下塗りから上塗りまで一貫した制作姿勢は、どこにも属さず自己完結することが必然だったのでしよう。食を支える器ですから、おかげさすに言えば生命を繋ぐ道具でもあります。それは敬虔な行為であり、その道具をもって神に捧げ、そして命を繋ぐ。太田さんの作る漆器は暮らしと調和的な静かさがあり、強さと洗練の間で均衡しているのです。それは木に添って我を一步外に置き、素材に耳を傾けてきたからではないでしょうか。その触れ合いの方が、ものづくりの謙遜の心を支えているのです。きっとこの事実は時代に「残すべきもの」だと思います。ぜひ太田さんの漆器を手にとって考えてみてもらいたいです。 店主

太田修嗣展 確かなるもの

2024年5月11日(土)～18日(土)
作家在廊日 5月11日
11:00～18:00 最終日は17時迄

ギャラリー うつわノート
埼玉県川越市小仙渡町1-7-6
TEL 049-298-8715
MAIL utsuwanote@gmail.com



略歴

1949年 愛媛県松山市生まれ
1981年 鎌倉・呂修庵にて漆師の仕事始める
1983年 村井義作氏に師事 蒔絵や塗り塗り等を学ぶ
1987年 神奈川県厚木市にて独立
ろくろ・指物・削物一貫制作の工房を開く
1994年 愛媛県広田村(現・砥部町)に移転
2024年 現在 同地にて制作

太田修嗣展 確かなるもの

2024年5月11日(土)～18日(土)
作家在廊日5月11日

GALLERY
うつわノート